

を回収」と業者を守った。

90年に兵庫県警が業者を摘発し、93年、島民は県の公害審査会に調停を申し立てる。国の公害等調整委員会に舞台は移り、96年には菅直人厚生大臣(当時)が現地視察した。県は「責任はない」と主張したが、住民弁護団の中坊公平団長(故人)らが奮戦し2000年に調停が成立。当時の真鍋武紀県知事が島民に謝罪し、廃棄物は直島(香川県直島町)の溶融・焼却施設で無害化することになり、この3月が撤出期限だった。

副団長を務めた大川真郎弁護士(76歳)は「感慨深い。悪質な企業の犯罪行為に加担した行政が被害を拡大させた。直島での無害化過程で多くの産廃が再生可能とわかったことは大きな成果だった。島は名前の通り、かつての豊かな島に戻ってほしい」と期待する。

小さな島には約90万トンもの廃棄物が捨てられ、今も地下水は汚



3月28日、豊島の産廃撤去完了した船を見送る香川県・豊島の住民ら。(提供/共同)

染され、海岸付近は穴だらけ。22年の処理完了予定までの総費用は約770億円という。

栗野仁雄・ジャーナリスト

### 都教委読本「五輪憲章に違反」高嶋伸欣氏ら監査請求

東京都教育委員会が作成・配布した『オリンピック・パラリンピック学習読本』(以下、『五輪読本』)・DVD・教師用指導書は、「五輪憲章に違反した誤謬のものである」とし、都教委を訴える会(共同代表 高嶋伸欣琉球大学名誉教授・増田都子元千代田区立中学校教諭。以下、訴える会)の都民10人が3月27日、経費1億6431万円強の返還を求める措置請求(住民監査請求)を行なった。都教委は昨年4月から、全公立小学校4年生から高校生までの約66万4000人に『五輪読本』を配布し、年間35時間の五輪教育実施を義務化した。『五輪読本』は小学校用が「表彰式の国旗けいようでは、国歌が流されず」、中学校用が表彰式の写真説明で、1位の国の「国歌演奏」時「敬意を表し、起立して脱帽する」と記述。これに対し訴える会は、「五輪憲章は、表彰式で掲揚・演奏するのは「各NOC・選手団の旗・歌」であり、国旗・国歌ではないとしている」という事実を指摘。

### 袴田巖さん釈放から3年、「早く再審を」

1966年に静岡県で一家4人が殺害された「袴田事件」で、死刑が確定していた元プロボクサー袴田巖さん(81歳)に静岡地裁が再審開始決定を出し、袴田さんが釈放されて3月27日で3年。「袴田巖さんの再審無罪を求める実行委員会」(日本プロボクシング協会袴田巖支援委など8団体)はこの日、東京高裁と東京高検に対し、即時抗告審を打ち切って早期に再審を開始するよう要請した。

実行委は声明で「袴田さんは未だいわれなき『確定死刑囚』の汚名を着せられ



81歳の誕生日会で乾杯する袴田巖さん(左から2人目)。表情が豊かになった。3月、浜松市内。

たままだ」と強調。袴田さんと姉の秀子さん(84歳)にとって「これ以上、不毛な争いを続けることは裁判に名を借りた拷問。2人の命あるうちに再審無罪判決を届け、平穏な余生を送らせてあげよう」とアピールした。

要請には女子プロボクシング世界王者の小関桃さんも参加し、「1日も早く無罪に」と訴えた。姉弟が暮らす浜松市の支援者は、3年間の袴田さんの様子を収めたDVDを高裁と高検に手渡した。

要請後の記者会見には秀子さんも同席し、弟の近況を「笑ったり怒ったりと表情が豊かになった」「2、3日前から日記をつけている」と紹介した。高裁審理の長期化に対しては「(逮捕から)50年待ったのだから3年や5年は何でもない。拘留所を出てきて自由になったのが大事で、今の状況はそれまでと比べたら何でもない」と淡々と語った。

文・写真/小石勝朗・ジャーナリスト

続けて「(国家権力が)誤った

知識や一方的な観念を子どもに植えつけるような内容の教育を施すことを強制する」のは、「憲法26条・13条……からも許されない」と判じた、1976年の旭川学力テスト事件最高裁判決に照らし、『五輪読本』等の支出は違憲・違法」とし、中井敬三教育長と山口香・遠藤勝裕・大杉寛・宮崎緑・木村孟の各教育委員(木村氏は退任)に対し、連帯して返済させるよう都監査委員に措置請求した。

都庁記者クラブでの会見で、長

谷川直彦弁護士は「2000年シドニー五輪で韓国と北朝鮮が(国旗でなく)統一旗を使用した事実」を示した。映画監督の増山麗奈さんは「小5と中3の母親として(五輪教育の)年間35時間は多過ぎる。将来に役立つ基礎学力充実の方に時間を使ってほしい」、音楽家・小野寺通さんは「君が代」を敬愛せよと教え込むのは外国籍の子どもへの配慮を欠く」と発言した。

永野厚男・教育ジャーナリスト